

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	英語	2・東書	NEW HORIZON English Course 1 NEW HORIZON English Course 2 NEW HORIZON English Course 3
取 扱 内 容	○ 「聞くこと」については、「各 Unit」、「Enjoy Listening」、「Preview」、「Real Life English」などを通して、必要な情報や話し手の伝えたい内容を捉える活動を行えるようになっている。 ○ 「読むこと」については、各 Unit Part1. 2、Read and Think や Stage Activity、Let' s Read、Learning… in English を通して、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ったり社会的な話題について簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えたりすることができるようになっている。 ○ 「話すこと [やり取り]」については、各 Unit Plus One や Stage Activity、Real Life in English、Learning… in English を通して関心のある事柄について簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようになっている。 ○ 「話すこと [発表]」については各 Unit Read and Think や Stage Activity、Learning… in English、を通して日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようになっている。 ○ 「書くこと」については、各 Unit Activity、Read and Think や Stage Activity、Real Life in English、Learning… in English を通して日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、各学年巻頭の「学び方」コーナーや、I C T 端末を利用して自ら選んで行うことのできる学習活動を促している点において工夫がなされている。また、教科書本文において Unit / Stage Activity の言語活動に必要な表現を取り上げており、生徒は伝えたい言葉を教科書本文から探し出し、活用する仕組みによって、主体的に学ぶことができるようになっている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、Unit の各パートの最後に Activity、その各パートの積み上げを生かして単元末活動の Unit Activity でまとめ、さらに 3 回設定されている Stage Activity に向かって、活動を系統的に積み上げていくようになっている。 また、北海道にかかわりのある内容については、2 学年では Unit0 における「春休みの旅行先（札幌）」、Unit2 における「Sapporo Ramen（札幌）」、Unit7 における「世界遺産の一例（知床）」が、3 学年では Unit1 における「外国人観光客の旅行目的（北海道）」、Unit3 における「絶滅危惧種の一例（北海道、シマフクロウ、タンチョウなど）」など、以上が取り上げられている。		
使 用 上 の 配 慮 等	○ 本文や New Words、Key Sentences など、紙面上の要素のデザインや配置が統一されているので、学習の流れを見通し、安心して学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、資料編の Word Room では、紙とデジタルの両方に語彙をジャンル別に豊富に示し、自分が伝えたいことを表現するときに使うことができるよう工夫されている。 ○ I C T 端末を利用した新出表現練習、音読練習、発表活動における達成目標の確認が生徒自身でいつでも行えるよう、各単元において個別最適な学びの一助となる工夫がなされている。		
そ の 他			

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	英語	9・開隆堂	Sunshine English Course 1 Sunshine English Course 2 Sunshine English Course 3
取 扱 内 容	○ 「聞くこと」については、Course1～3をとおして、選択式のクイズを設けるなど、英語に愛着をもてるような配慮が見られる。 ○ 「読むこと」については、Program Part1～3を通して、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ったり、社会的な話題について簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えたりすることができるようになっている。 ○ 「話すこと [やり取り]」については、単元ごとに常設している「Review & Retell」で生徒は無理なく自分のことばで本文の内容を伝え合い、友だちの発表を通じて「こんなふうにも言うことができたのか」と気づき、既習表現や簡単な語句を用いて即興で伝え合うことができるようになっている。 ○ 「話すこと [発表]」については、単元ごとの終末に常設している「Action」で常に生徒は「自分の意見は理由をつけて話す」を促進され、社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、既習の表現を用いて述べ合うことができるようになっている。 ○ 「書くこと」については、Speak&Writeを通して日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では簡単な表現を使ってまとまりのある内容を話すことができるように Our Project1～3 が取り上げられている。第2学年では伝えたいことを整理して話したり書いたりできるように Our Project4～6 が取り上げられている。第3学年では考えたことや感じたことを、理由を添えて伝えたり書いたりできるように Our Project7～8 が取り上げられている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、日常生活だけでなく、環境、平和、人権、共生などの現代的課題を扱い、多様なものの見方や考え方について、児童に思考力・判断力を促す内容が精選されている。自国の伝統と文化を尊重するとともに、他国の自然や動物に関わる話題や国際社会に寄与する意識を育てるような題材が配置されている。 - また、北海道（胆振・苫小牧）に関わりのある内容については、第3学年で「北海道在住の獣医齊藤慶輔さんの猛禽類保護活動」が取り上げられている。		
使 用 上 の 配 慮 等	○ 「何のために」「だれに向けて」を意識した実生活に役立つコミュニケーション活動が配置されるなど、意欲的に学習できるよう工夫されている。 ○ Tuning in では本文の題材に関連した写真やクイズ、情報が掲載されており、内容についての興味・関心を喚起して、主体的に学習できるよう工夫されている。 ○ I C T 端末を利用した新出語句練習、音読練習など、生徒自身でいつでも行えるよう、各単元において個別最適な学びの一助となる工夫がなされている。		
そ の 他			

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	英語	15・三省堂	NEW CROWN English Series 1 NEW CROWN English Series 2 NEW CROWN English Series 3
取 扱 内 容	○「聞くこと」については、「各 Lesson / Goal Activity」、「Starter」、「Take Action!」、「Project」などを通して、必要な情報や話し手の伝えたい内容を捉える活動を行えるようになっている。 ○「読むこと」については、「各 Lesson / Goal Activity」、「Take Action!」、「Reading Lesson」、「Project」などを通して、場面や登場人物の心情、時系列の整理、議論に向けた意見の読み取り、説明文の概要を捉える活動を行えるようになっている。 ○「話すこと[やり取り]」については、「各 Lesson / Goal Activity」、「Take Action!」などを通して、これまで起きた出来事や、好みや要望、主張やその理由について伝え合う活動を行えるようになっている。 ○「話すこと[発表]」については、「各 Lesson / Goal Activity」、「Project」などを通して、友達紹介や思い出に残った出来事、好きなものや理由、アンケート調査の結果、またこれからの抱負などを発表する活動を行えるようになっている。 ○「書くこと」については、「各 Lesson / Goal Activity」、「Project」などを通して、自・他己紹介、学校生活について、また資料から読み取った情報を要約したり、意見文を書いたりする活動を行えるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では簡単な表現を使ってまとまりのある内容を話すことができるように Project（題材名：What Am I?クイズ、理想のロボット選手権、日本の「昔話」の紙芝居）が取り上げられている。第2学年では伝えたいことを整理して話したり書いたりできるように Project（題材名：スピーチ「My Dream」、人気のあるもの調査、好きなもの×観光マップ）が取り上げられている。第3学年では考えたことや感じたことを、理由を添えてたずねたり書いたりできるよう Project（題材名：旅行のプランの提案、ラジオの30秒CM、10年後の自分へのメッセージ）が取り上げられている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、環境や人権、平和など、社会的な話題について書かれた英文を読んで、実際に自分たちの身のまわりにあることと関連させて考えられるようになっている。 また、北海道にかかわりのある内容については、1学年では Lesson4 における「旅行先の提示（北海道）」、Lesson7 における「アスリートが大切にしている内容について（ロコソラーレ）」が、2学年では Project3 における「日本の写真スポットの紹介（函館・五稜郭）」がそれぞれ、取り上げられている。		
使 用 上 の 配 慮 等	○ 学年ごとの英語学習のポイントを巻頭の「しくみと学び方」で、さらに、それぞれの Lesson で学習する文法内容を、Lesson ごとに配置されている「Language Focus」で確認できるようになっている。 ○ 各 Lesson で学習した内容を「Goal Activity」で振り返る活動が全学年で組み込まれている。それまでに表現した内容をリアルな場面で生かすことのできる活動が展開されることで、生徒の学習意欲が高められるよう工夫されている。 ○ 二次元コードを利用して児童が個別に音声や動画、発音のチェックや辞書機能などの情報にアクセスすることができ、自学自習や感染症対策を含めた家庭学習などの多様な学びにつなげることができるよう工夫されている。		
そ の 他			

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	英語	17・教出	ONE WORLD English Course 1 ONE WORLD English Course 2 ONE WORLD English Course 3
取 扱 内 容	○ 「聞くこと」については、「Review Lesson」、「各 Lesson」、「Tips」、「Project」などを通して、必要な情報や話し手の伝えたい内容を捉える活動を行えるようになっている。 ○ 「読むこと」については、各単元で学習する表現が文法シラバスで展開するのではなく、内容シラバスでの学習展開となっており、説明文やチャットのやり取りから情報を読み取ったり、おおまかに捉えたりする活動を通して、必要な情報を読み取ることができるようになっている。 ○ 「話すこと[やり取り]」については、「各 Lesson / Activities Plus」、「Tips」、「Useful Expressions」、「Project」などを通して、これまで起きた出来事や、好みや要望、主張やその理由について伝え合う活動を行えるようになっている。 ○ 「話すこと[発表]」については、単元ごとの終末に常設している「Task」で常に生徒は無理なく自分のことばで本文の内容を伝え合い、友だちの発表を通じて「こんなふうにも言うことができたのか」と気づき、既習表現や簡単な語句を用いて即興で伝え合うことができるようになっている。 ○ 「書くこと」については、「Review Lesson」、「各 Lesson」、「Tips」、「Project」などを通して、自・他己紹介、学校生活について、また資料から読み取った情報を要約したり、意見文を書いたりする活動を行えるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習の対応については、Project を軸として、第1学年では「標識開発」や「SDGs」、第2学年では「日本文化紹介」や「夢の旅行企画」、そして第3学年では「商品開発」や「ディベート」と、自らの考えや意見をアウトプットする内容が取り上げられている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、SDGs に関する事項が排列されており、第1学年では「環境問題」について、第2学年では「社会福祉」や「平等参画」、そして第3学年では「環境問題」や「産業革新」と、生徒の発達段階に応じて内容を深化し、社会を自分事として捉えながら学習を進めることができるようになっている。 また、北海道にかかわりのある内容については、1学年では Lesson6 における「おすすめのマンガ紹介（ゴールデンカムイ・アイヌ）」、2学年では Project2 における「訪れたい場所の紹介例（北海道・ウポポイ・アイヌ）」、そして3学年では Lesson2「全体（北海道のワシの保護活動について）」など、それぞれ取り上げられている。		
使 用 上 等 の 配 慮	○ 各単元の終末には、「Tips」が配置され、4技能5領域の学習をバランスよく進めることで、生徒は学んだことの活用場面をより進化させることができるという工夫がなされている。 ○ 「Activity Plus」では、日常会話場面が設定されており、帯活動として使用することで、生徒は既習事項を活用しながら会話の定着を図ることができるよう工夫されている。 ○ I C T 端末を利用した新出表現練習、音読練習などを生徒自身がいつでも行えるよう、各単元においてまなびリンクを活用することで個別最適な学びの一助となる工夫がなされている。		
そ の 他			

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	英語	38・光村	Here We Go! ENGLISH COURSE 1 Here We Go! ENGLISH COURSE 2 Here We Go! ENGLISH COURSE 3
取 扱 内 容	○ 「聞くこと」については、「各 Unit」、「You Can Do It!」、「Daily Life」などを通して、必要な情報や話し手の伝えたい内容を捉える活動を行えるようになっている。 ○ 「読むこと」については、各単元で学習する表現が文法シラバスで展開するのではなく、内容シラバスでの学習展開となっており、説明文やチャットのやり取りから情報を読み取ったり、おおまかに捉えたりする活動を通して、必要な情報を読み取ることができるようになっている。 ○ 「話すこと [やり取り]」については、「各 Unit」、「You Can Do It!」、「Daily Life」、「Let's Talk」などを通して、これまで起きた出来事や、好みや要望、主張やその理由について伝え合う活動を行えるようになっている。 ○ 「話すこと [発表]」については、ユニットの最後に、ゴールとして設けられている。一つのユニットをパート展開しながら深く学ぶことで、生徒自身の意見をしっかりと整理し発表につなげることができるようになっている。 ○ 「書くこと」については、単元ごとの終末に常設している「Goal」で常に生徒は単元内の学習を振り返り、既習事項を活用して自身の学びの発展を促進され、事実や自分の考え、気持ちを整理して、まとまりのある文章を書くことができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、各学年巻頭の「なぜ・どのように英語を学ぶのでしょうか」や、ICT端末を利用して自ら選んで行うことのできる学習活動を促している（ICTを活用しよう）点において工夫がなされている。また、教科書本文において「Goal / You Can Do It!」の言語活動に必要な表現を取り上げており、生徒は伝えたい言葉を教科書本文から探し出し、活用する仕組みによって、主体的に学ぶことができるようになっている。		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、教科書の内容全体を通して、互いの違いを尊重し、ともに考え、よりよい未来を切りひらいていく力を育成する活動が組み込まれている。その他、自国の伝統・文化を尊重する態度や、環境の保全に寄与する態度の育成、防災意識などに留意した内容なども組み込まれた構成になっている。 また、北海道にかかわりのある内容については、2 学年では「会話で使用される路線図（札幌市営地下鉄）」や「地域紹介の一例（札幌の観光地など）」、「地域 PR かるたの一例（北海道の絶滅に瀕している動物）」、そして「“Ainu, My Voice”（アイヌ民族・萱野りえ）」、「石狩市出身のドラマー YOYOKA」、3 学年では「旅行で行きたい場所の一例（北海道・旭山動物園）」が取り上げられている。		
使 用 上 の 配 慮 等	○ 各 Unit で学習した内容を「Goal」や「You Can Do It!」で振り返る活動が全学年で組み込まれている。それまでに表現した内容を生かした活動が展開されることで、生徒の学習意欲が高められるよう工夫されている。 ○ それぞれの Unit で学習する文法内容を単元末に配置されている「Active Grammar」で確認できるようになっている。 ○ ICT を活用した学習のための二次元コードはほぼすべて、ページ上部右に統一して配置しているため、一目でわかるよう工夫されている。教科書のサイズも小さく、机上の占有も少なくなるよう工夫されている。		
そ の 他			

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	英語	61・啓林館	BLUE SKY English Course 1 BLUE SKY English Course 2 BLUE SKY English Course 3
取 扱 内 容	○ 「聞くこと」については、各単元の導入時に設定されているリスニング活動を通して、話題の要点について、具体的な内容に必要な情報を聞き取ることができるようになっている。 ○ 「読むこと」については、各単元で学習する表現が文法シラバスで展開するのではなく、内容シラバスでの学習展開となっており、説明文やチャットのやり取りから情報を読み取ったり、おおまかに捉えたりする活動を通して、必要な情報を読み取ることができるようになっている。 ○ 「話すこと [やり取り]」については、各 Unit Plus One や Stage Activity、Real Life in English、Learning... in English を通して関心のある事柄について簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようになっている。 ○ 「話すこと [発表]」については、単元ごとの終末に常設している「Think」で常に生徒は「インプットした学習内容をアウトプットする活動」が設定されており、身近な話題から社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、既習の表現を用いて述べ合うことができるようになっている。 ○ 「書くこと」については、各 Unit Activity、Read and Think や Stage Activity、Real Life in English、Learning... in English を通して日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では簡単な表現を使ってまとまりのある内容を話すことができるように Project (題材名：What Am I?クイズ、理想のロボット選手権、日本の「昔話」の紙芝居) が取り上げられている。第2学年では伝えたいことを整理して話したり書いたりできるように Project (題材名：スピーチ「My Dream」、人気のあるもの調査、好きなもの×観光マップ) が取り上げられている。第3学年では考えたことや感じたことを、理由を添えてたずねたり書いたりできるよう Project (題材名：旅行のプランの提案、ラジオの30秒CM、10年後の自分へのメッセージ) が取り上げられている。		
内 容 の 構 成・ 排 列	○ 内容の構成・排列については、SDGs に関する事項が排列されており、第1学年では「気候変動に具体的な対策を」や「海の豊かさを守ろう」について、第2学年では「住み続けられるまちづくりを」、そして第3学年では「クリーンエネルギー」や「陸の豊かさを守ろう」と、生徒の発達段階に応じて内容を深化し、社会を自分事として捉えながら学習を進めることができるようになっている。 また、北海道にかかわりのある内容については、1学年ではUnit4における「3ヒントクイズの人物紹介で高梨沙羅選手」が、2学年ではUnit2における「祭り紹介としてよさこいソーラン」などがそれぞれ、取り上げられている。		
使 用 上 の 配 慮 等	○ Listen、Speak、Write の各パートにおいて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて意欲的に学習できるよう工夫されている。 ○ 外国のさまざまな話題や世界の文化・ルールを取り上げ、児童が自分の住む地域についても意識し、国際理解や・異文化理解を深めることができるよう工夫されている。 ○ 英語学習のポイントやコツを系統的に取り上げている「英語の学び方」が掲載されており、生徒はそれをもとに、実利的な学習を進めることができるよう工夫されている。		
そ の 他			